

■科目名			
幼児教育の方法 The Method of the infant Education			
■開設年度	■区分	■学科名	■分類
2021	専修専門科目	教育学	
■単位数	■履修期	■履修条件	■開講期
2	4期		後
■担当教員			
黒川 久美			
■代表教員名及び連絡先等			
黒川久美 hisamikurokawa@gmail.com			
■オフィスアワー			
火曜日 16:00～17:30			
■講義の概要（目的・内容・方法）			
<p>幼児期の保育・教育方法の特質を理解することを目的とする。まず、日本の保育・幼児教育制度の概要をおさえる（第1～2回）。次に、改訂幼稚園教育要領（平成29年告示）によりながら、幼児期の保育・教育の基本である「環境を通して行う教育」「遊びを通しての総合的な指導」をおさえる（第3回）。今日の幼児の「気になる姿」を取り上げ、発達のプロセスをおさえる（第4回）。子ども理解の内容・方法をおさえる（第5回）。続いて、発達をふまえた保育・幼児教育実践を具体的実践事例によりながら学び、保育・幼児教育の方法について理解する（第6～11回）。さらに、幼児期の主導的活動である遊びの指導・援助論を深める（第12～13回）。最後に、情報機器の活用並びに小学校教育との接続について取り上げる（第14回）。</p>			
■授業の到達目標及びテーマ			
<p>(1) 幼稚園教育要領（平成29年告示）に示された幼児期の保育・教育の基本を理解する。 (2) 幼児期の発達をふまえ、保育・幼児教育の方法的特質と具体的指導法について理解する。 (3) 遊びの指導・援助論を理解する。 (4) 情報機器の活用並びに小学校教育との円滑な接続のための方法を理解する。</p>			
■授業計画			
<p>第1回：日本の保育・幼児教育制度の概要(1)～幼保二元化から子ども・子育て支援新制度へ 第2回：日本の保育・幼児教育制度の概要(2)～幼稚園の状況 第3回：幼稚園教育要領が示す幼児期の保育・教育の基本 第4回：今日の幼児の「気になる姿」と発達のプロセス 第5回：子ども理解の内容・方法 第6回：2歳児（年少少）クラスにおける実践 第7回：3歳児（年少）クラスにおける実践 第8回：4歳児（年中）クラスにおける実践 第9回：5歳児（年長）クラスにおける実践 第10回：異年齢保育における実践 第11回：特別な配慮を必要とする幼児への指導・援助 第12回：遊びの指導・援助論(1)～遊びの構造と指導・援助の方法 第13回：遊びの指導・援助論(2)～遊びの種類と発展過程 第14回：情報機器の活用並びに小学校教育との円滑な接続のための方法 第15回：全体のまとめと期末レポート</p>			
■授業外学習（予習・復習）			
<p>テキストの予習 テキストおよび授業のまとめ 授業中配布した参考資料のまとめ</p>			
■受講要件			
■成績の評価基準			
授業中に提出するレポート（30％）、冬季休業中のレポート（30％）、期末レポート（40％）			
■教科書・参考書			
<p>テキスト 赤木和重他『どの子にも あ～楽しかった！の毎日を一発達の視点と保育の手立てをむすぶ』ひとなる書房</p>			

2017年

参考書・参考資料等

無藤隆監修『幼稚園教育要領ハンドブック（2017年告示版）』学研 2017年

全国保育団体連絡会・保育研究所編『保育白書2020』ひとなる書房 2020年

大宮勇雄他編『どう変わる？何が問題？現場の視点で新要領・指針を考えあう』ひとなる書房 2017年

今井和子『遊びこそ豊かな学び』ひとなる書房 2013年

九州合研常任委員会編『からだあそび145選』かもがわ出版 2020年

■教師としての資質能力に関するチェック項目

3. 教育方法に関する理解

【A教職の理解】教育方法の理論に関する理解を深め、複式指導や少人数指導、教材開発や活用、授業分析など、指導法や授業改善について理解している

9. 学習者の心理・発達に関する理解

【C学習者理解】子どもの発達や心理など、子ども理解のための基礎的な知識を身に付けており、それらを生かして子どもの発達を分析することができる

18. 各教科内容の基盤的知識の理解及び技能の習得

【E教科領域等の内容理解】教科内容の背景となる学問領域について、基盤的な知識や技能を身に付けている

アクティブ・ラーニング

グループ・ディスカッション；

振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

5回

■実務経験のある教員による実践的授業

■その他